



9人の参加者は試行錯誤しながら花飾りを完成させました。

野々市に関わる人、増やします 関係人口づくりキックオフセミナー

3月6日(火)、学びの杜ののいち カレードで関係人口づくりキックオフセミナーが開催されました。「関係人口」とは、その地域に定住しているわけではないけれども地域と多様に関わる人々のことです。本格的な人口減少時代において関係人口を増やすことの大切さについてローカルジャーナリストの田中輝美氏が講演。田中氏は「関係人口を増やすには、市外の人に関わりたくなるようなコミュニティを作ることが重要」と語り、約50人の参加者は熱心に話を聞いていました。

ボランティアの輪を広げよう ちょっとボランティア

2月23日(金)、多機能型事業所椿で「ちょっとボランティア～水引でお花作り～」が開かれました。趣味や楽しみをボランティアにつなげることを目的とし、椿職員の谷原氏が講師を務めた今回は水引で花飾りを作成。障害のある人が作ったすき紙と合わせて、のし袋が完成します。市地域福祉計画でボランティアバンクの推進に取り組む、プロジェクトリーダーの北村氏は「時間の空いた時にちょっとだけやってみようかな、と思ってもらうきっかけになればうれしい」と語りました。



関係人口づくりにつながる取り組みの事例発表も行われました。



卒業生一人一人が校長先生から卒業証書を授与されました。

新しい舞台への旅立ち 市内小中学校 卒業式

市内では3月9日(金)に中学校、3月16日(金)に小学校で卒業式が行われ、中学生468人、小学生479人が卒業を迎え、新たな一歩を踏み出しました。野々市中学校では、卒業生代表の青柳竜之介さんが「苦しい時や悩む時もあると思うが、そんな時は支えてくれる仲間がいることを思い出して前に進んで行きたい」と述べました。最後は卒業生と在校生が心を込めて「旅立ちの日に」を合唱し、笑顔と涙があふれる感動的な式となりました。



明倫高校OB吹奏楽団・御経塚保育園園児によるくす玉割り

未来へつなぐ にぎわいのレール 開業50周年記念事業 J R野々市駅フェスタ

3月25日(日)、J R野々市駅は開業から50周年を迎えました。その記念イベントとして17日(土)、J R野々市駅フェスタを開催。駅の南口で太鼓が演奏された後、マーケットが開かれ、飲食物や野菜などの販売ブースは多くの人でにぎわいました。また駅に隣接する交遊舎では、ウクレレ演奏やダンス披露、芦原伸氏による記念講演を実施。開式にあたり主催者を代表して北村成人氏が「駅をつくった先人たちのように、今後も地域の力を合わせていきましょう」とあいさつしました。

まちの話題 Focus

皆さんの周りの楽しい話題やイベントなどの情報を教えてください。
市民協働課 ☎ 227-6056

中央地区整備事業の締めくくり 地域中心交流拠点施設建設工事起工式

2月28日(水)、本町二丁目地内で野々市中央地区整備事業（地域中心交流拠点施設）建設工事起工式が行われました。関係者約100人が出席した起工式で、栗市長は「地域中心交流拠点施設は多くの市民の皆さんに待ち望まれた施設で、市民活動やまち巡りの拠点として野々市のシンボルとなることを期待したい。本町地区は永く野々市の歴史が刻まれた場所で、これを後世に伝え、繁栄させることが私たちの責務だと思う」と式辞を述べました。

平成31年4月に開館予定の地域中心交流拠点施設は中央公民館、市民活動センター、民間商業施設が一体となった施設で、ヒトとモノの交流を促し、にぎわいを創出することを目的に建設します。



- ①施設完成予想図 外観
- ②施設完成予想図 内観
- ③起工式で杭打ち初めを行う栗市長
- ④多数の参加がありました

市民と行政の思いを形に 平成29年度 提案型協働事業の成果発表会

文化会館フォルテにて2月26日(月)、提案型協働事業成果発表会が開催されました。平成29年度は、6件の企画を採択。各団体が市と協力して活動し、子育て支援イベントの実施や、野々市をテーマとした紙芝居の制作などに取り組みました。発表終了後、審査委員長の蜂屋大八氏は「個々の団体を点とすると、これから面へとつなげていく時。それぞれの個性を生かしながら補い合ってつながってほしい。団体と行政がともに汗をかくことも大切」と振り返りました。



富奥地区のおいしいものを集めたマルシェ『TOMICHE』の発表。

未来は私たちの一票から 高等学校への期日前投票所の設置

3月2日(金)、選挙権を有する高校3年生に積極的な投票参加を促すため、卒業式に合わせて県立野々市明倫高等学校内に期日前投票所が設けられました。3年生在籍者271人のうち対象となったのは市内在住の約40人で、初めての投票となる高校生もいました。投票を終えた高校生からは「社会へ出て行く人間としての自覚が持てた」「大人になった感じがする。初めてで緊張したけど、次回も投票したい」など、これからの社会を担っていく思いと意気込みが感じられました。



若者の選挙への関心を高める取り組みとして初めて実施しました。